

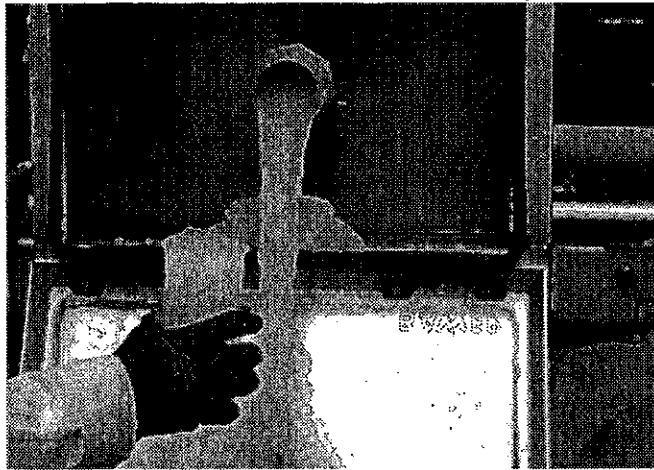
安城市でアイスピグ洗浄

昭和土木 工業用水管で効果を確認

昭和土木(名古屋)は12月20日、愛知県安城市の工業用水管を「アイスピグ管内洗浄工法」で洗浄

した。同県企業庁からの受注案件で、県では、これまで、稲沢市(尾張水道事務所管内)でも工業用水管を同工法で洗浄

した実績があり、従来の工法よりも断水時間が短縮できることから、安城市(西三河水道事務所管内)での実施を決めた。



含水率80%の特殊アイスシャーベットを使用

昭和土木(名古屋)は、平成25年12月に設立されたアイスピグ中部地域協会(相澤宏暢会長)の会員で、中部圏を中心に営業活動を展開している。

施工箇所は、φ150、延長287mのダクタイル鉄管。洗浄に使用したのは、含水率80%の特殊アイスシャーベット(SIS)で、運搬専用車「アリバリーユニット」(2・2ト×2台)で搬入した。SISの品質を保つための特殊車両で、保冷機能と攪拌機が装備されたタンクと、SIS

を管内に注入するポンプを搭載している。

仕切弁を操作し、断水後に注入口からSISを注入し、ピグを形成した。

アイスピグを押し流すために、注入ポンプを2台設置した。今回の施工では、洗浄効果を高めるため、SISの注入、洗浄を上流側と下流側からの

計2回行った結果、洗浄後のウォーターフラッシュの時間を短縮することができ、全体の施工時間も短縮された。

SISの回収口には水質監視装置(FAS)を設置し、連続的に水質を監視した。洗浄効果を視認するために設けられたアクリル管を通じて、到

達後のピグが茶褐色に変色していることが確認できた。採取したサンプルからは、SISがシャーベット状態を保ったまま回収口に到達し、さまざまな夾雑物を含んでいることがわかった。また、施工前後の管内テレビカメラ調査でも洗浄効果が確認された。